議題３

平成２９年１１月１４日
学校教育部指導第一課
学校教育部指導第二課

平成２９年度全国学力・学習状況調査及び「基礎・基本」定着状況調査の結果について（報告）

Ⅰ　調査の概要

１　全国学力・学習状況調査

(1)　調査の趣旨

①　全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

②　各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

③　各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

(2)　調査対象

区分	調査実施校数（校）			調査実施者数（人）		
	国	県	市	国	県	市
小学校第６学年	19,557	480	142	999,451	23,268	10,197
中学校第３学年	9,631	241	64	982,511	21,545	9,158

（広島県・広島市は、国・広島県の内数である。）

(3)　調査期日

平成２９年４月１８日（火）

(4)　調査内容

〈小学校第６学年〉

①　教科に関する調査

・　国語、算数の、主として「知識」に関する問題〔Ａ問題〕

・　国語、算数の、主として「活用」に関する問題〔Ｂ問題〕

②　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する児童質問紙調査

③　指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する学校質問紙調査

〈中学校第３学年〉

①　教科に関する調査

・　国語、数学の、主として「知識」に関する問題〔Ａ問題〕

・　国語、数学の、主として「活用」に関する問題〔Ｂ問題〕

②　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する生徒質問紙調査

③　指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する学校質問紙調査

２　「基礎・基本」定着状況調査

(1)　調査の趣旨

①　学習指導要領に示されている目標及び内容に基づき、「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な知識・技能の定着状況とともに、思考力、表現力などの状況を把握する。

②　児童生徒の生活や学習に関する意識や実態及び各学校における教科指導等の実態を把握する。

③　各学校が全県的な結果と比較・分析することを通して、自校の課題を明確にするとともに、指導内容や指導方法の改善・充実を図る。
④　調査結果を基に児童生徒の学習の到達度を明らかにし、教育行政施策に生かす。

(2)　調査対象

学年	調査実施校数（校）		集計対象者数（人）	
	県	市	県	市
小学校第５学年	475	142	23,766	10,412
中学校第２学年	240	64	21,452	8,991

(3)　調査期日
平成２９年６月１３日（火）

(4)　調査内容（実施教科等）
〈小学校第５学年〉
①　国語、算数、理科における前学年までの学習内容の定着状況調査
②　生活と学習に関する意識・実態についての児童質問紙調査
③　指導方法等についての学校質問紙調査
〈中学校第２学年〉
①　国語、数学、理科、英語における前学年までの学習内容の定着状況調査
②　生活と学習に関する意識・実態についての生徒質問紙調査
③　指導方法等についての学校質問紙調査

(5)　調査問題の類型
①　タイプⅠの問題
教科で身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼすなど基礎的・基本的な内容
②　タイプⅡの問題
教科で学習した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力などに係る内容

Ⅱ　調査結果の概要

1　教科に関する調査の結果について
(1)　平成２９年度全国学力・学習状況調査及び「基礎・基本」定着状況調査　正答数の分布状況

2　質問紙調査の結果について（全国学力・学習状況調査）
〔児童生徒〕
(1)　学習意欲
(2)　自尊意識
(3)　思考力・表現力
(4)　学習習慣
〔学校〕
(5)　指導方法

Ⅲ　特色ある学校の取組について

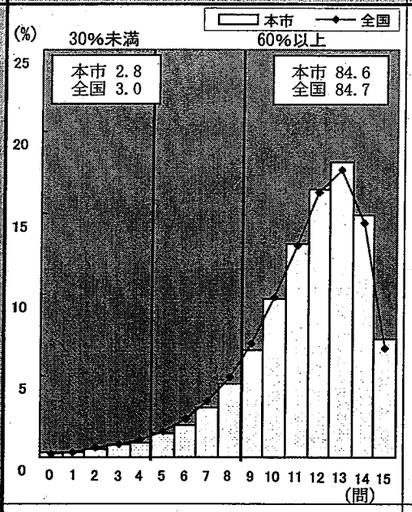
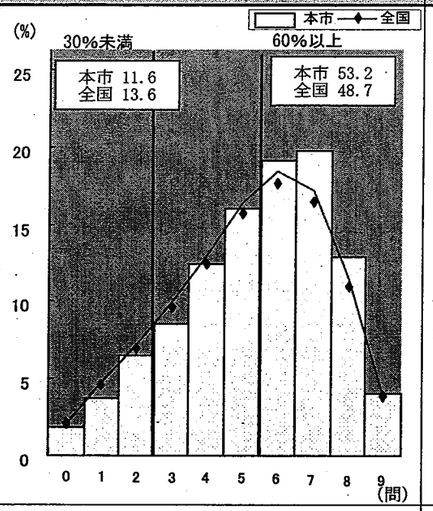
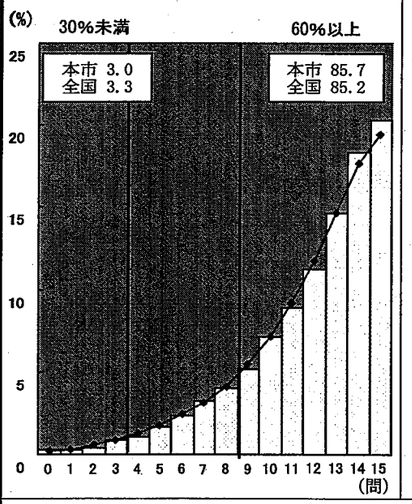
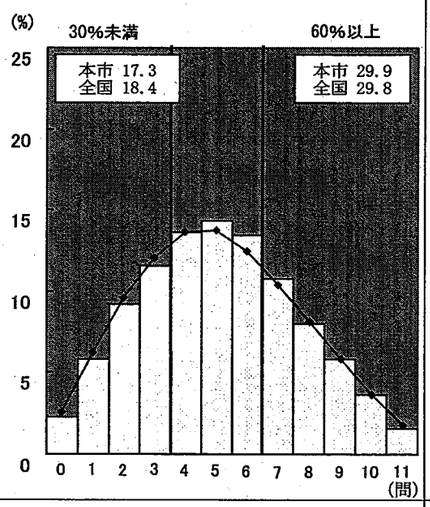
1　上安小学校
2　三和中学校

Ⅱ　調査結果の概要

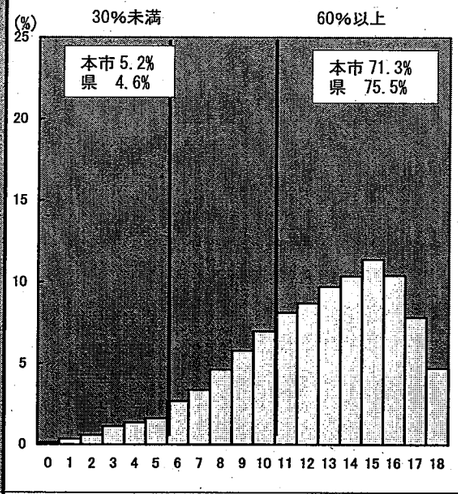
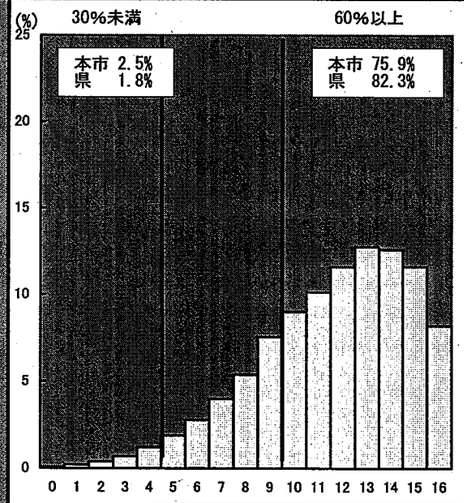
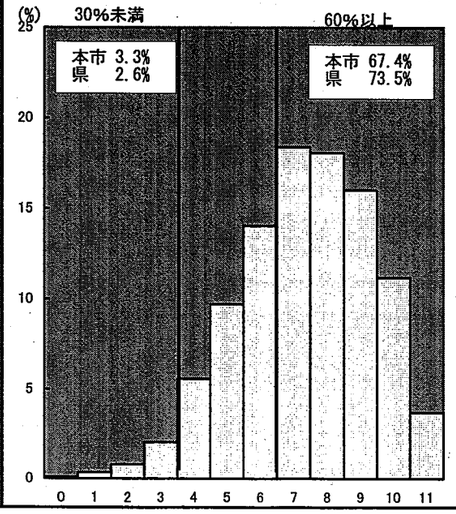
1　教科に関する調査の結果について

(1)　平成２９年度全国学力・学習状況調査及び「基礎・基本」定着状況調査　正答数の分布状況

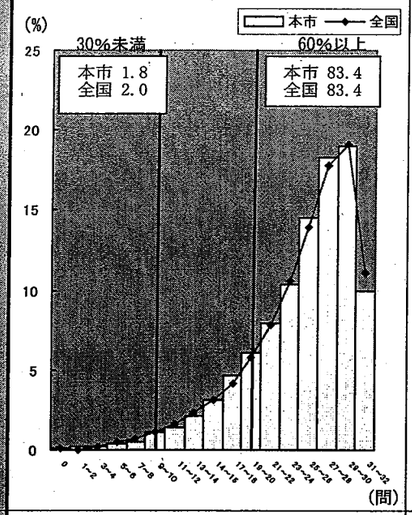
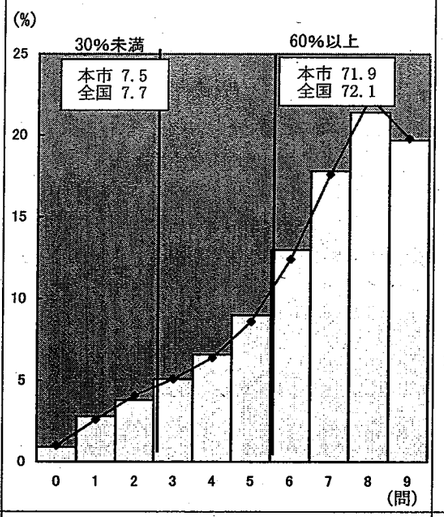
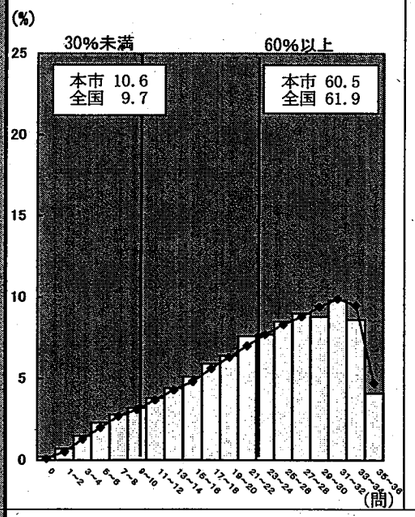
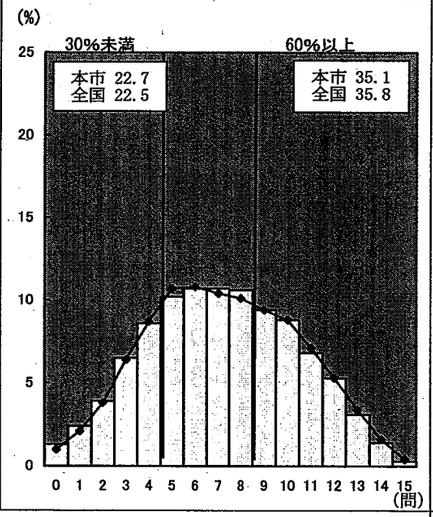
①　平成２９年度全国学力・学習状況調査　正答数の分布状況

教科等		A問題	B問題	特徴
小学校（対象　第６学年）	国語			Ａ問題・Ｂ問題ともに分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。Ａ問題・Ｂ問題ともに 30%未満の児童の割合は全国平均より低く、60%以上の児童の割合は全国平均より高い。
	算数			Ａ問題は分布が右に行くにつれて高い割合になっており、学習内容がおおむね定着していると見られる。Ｂ問題は左よりの山形になっており、ばらつきが大きい。　Ａ問題・Ｂ問題ともに 30%未満の児童の割合は全国平均より低く、60%以上の児童の割合は全国平均より高い。
	理科			

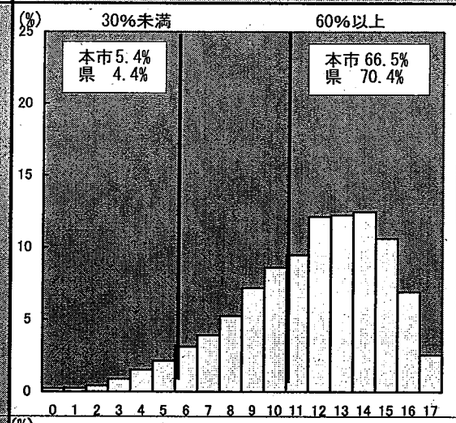
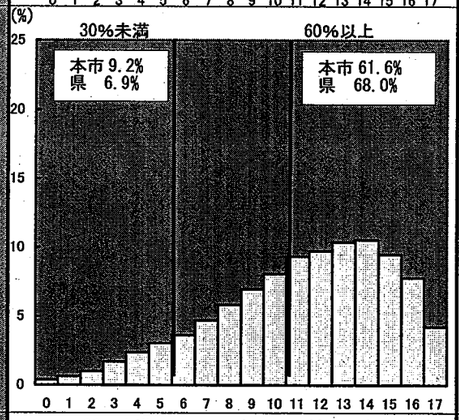
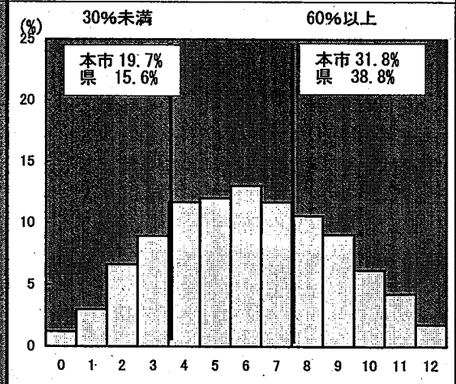
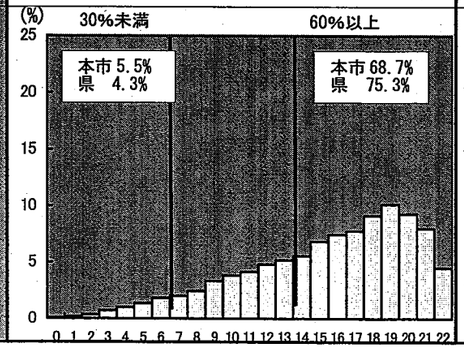
②　平成２９年度「基礎・基本」定着状況調査　正答数の分布状況

教科等		タイプⅠ	特徴
小学校（対象　第５学年）	国語		分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。 30%未満の児童の割合は 5.2%であり、昨年度と比べて 0.2 ポイント増加している。
	算数		分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。 30%未満の児童の割合は 2.5%であり、昨年度と比べて 1.4 ポイント減少している。
	理科		分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。 30%未満の児童の割合は 3.3%であり、昨年度と比べて 0.1 ポイント減少している。

① 平成２９年度全国学力・学習状況調査　正答数の分布状況

教科等	A問題	B問題	特徴
中学校（対象 第3学年） 国語			A問題・B問題ともに分布が右よりの山形であり、学習内容はおおむね定着していると見られる。A問題では、30%未満の生徒の割合、60%以上の生徒の割合が全国平均と同程度である。B問題では、30%未満の生徒の割合が全国平均より低く、60%以上の生徒の割合が全国平均より低い。
中学校（対象 第3学年） 数学			A問題は分布が右よりの山形になっているが、ばらつきが大きい。B問題は左よりの山形になっており、ばらつきが大きい。また、A問題・B問題とも、30%未満の生徒の割合が全国平均より高く、60%以上の生徒の割合が全国平均より低い。
中学校（対象 第3学年） 理科			

② 平成２９年度「基礎・基本」定着状況調査　正答数の分布状況

教科等	タイプⅠ	特徴
中学校（対象 第2学年） 国語		分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。 30%未満の生徒の割合は 5.4%であり、昨年度と比べて 0.2 ポイント増加している。
中学校（対象 第2学年） 数学		分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。 30%未満の生徒の割合は 9.2%であり、昨年度と比べて 2.9 ポイント増加している。
中学校（対象 第2学年） 理科		分布が中央によった山形であり、基礎的・基本的な学習内容の定着にやや課題が見られる。 30%未満の生徒の割合は 19.7%であり、昨年度と比べて 0.6 ポイント増加している。
中学校（対象 第2学年） 英語		分布が右よりの山形であり、基礎的・基本的な学習内容がおおむね定着していると見られる。 30%未満の生徒の割合は 5.5%であり、昨年度と比べて 0.4 ポイント増加している。

2　質問紙調査の結果について（全国学力・学習状況調査）

〔児童生徒〕①学習意欲　②自尊意識　③思考力・表現力　④学習習慣　〔学校〕⑤指導方法

抽出項目（経年変化）

【児童・生徒質問紙】

	設問（内容）	校種	H25	H26	H27	H28	H29
①	学校に行くのは楽しい	小学校	86.5	88.0	88.1	87.8	86.3(86.3)
		中学校	80.8	82.9	82.8	83.5	82.9(80.9)
	国語の勉強が好き	小学校	57.6	60.4	61.4	58.9	**60.0(60.5)**
		中学校	57.2	57.9	58.9	60.2	61.3(60.5)
	算数・数学の勉強が好き	小学校	63.6	65.2	65.5	65.0	**64.6(65.9)**
		中学校	56.2	57.7	58.2	59.2	56.2(55.4)
	理科の勉強が好き	小学校	—	—	83.1	—	—
		中学校	—	—	56.2	—	—
②	自分にはよいところがある	小学校	79.4	80.6	80.0	79.9	82.1(77.9)
		中学校	72.3	72.5	73.9	76.3	76.6(70.7)
	将来の夢や目標を持っている	小学校	83.3	83.3	85.8	85.3	87.7(85.9)
		中学校	76.1	71.0	74.9	74.1	73.2(71.5)
	学校のきまり・規則を守っている	小学校	90.9	91.3	91.7	92.9	93.4(92.6)
		中学校	94.8	95.0	96.2	96.1	96.1(95.2)
	人の役に立つ人間になりたいと思う	小学校	91.3	91.8	94.4	94.8	93.2(92.5)
		中学校	93.5	94.7	95.1	94.0	93.1(92.9)
③	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思う	小学校	54.6	52.3	51.2	49.6	48.0(53.7)
		中学校	65.6	64.3	61.4	60.1	58.1(62.8)
	話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	小学校	—	68.8	68.0	70.4	69.3(68.2)
		中学校	—	62.4	66.5	69.9	69.1(65.8)
④	家で学校の授業の予習をしている	小学校	37.1	40.6	38.2	39.4	**37.4(41.0)**
		中学校	31.2	33.3	33.7	33.2	**28.7(31.7)**
	家で学校の授業の復習をしている	小学校	46.0	50.2	47.8	50.9	**48.4(53.8)**
		中学校	45.8	50.1	50.8	50.1	**47.1(50.5)**
	学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）の１日あたりの勉強時間（３０分以上）	小学校	87.7	87.2	88.3	89.1	89.0(88.7)
		中学校	85.2	85.2	87.0	85.0	**85.0(87.8)**
	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）読書をしている	小学校	79.1	81.1	80.7	79.0	79.4(79.4)
		中学校	66.5	68.2	68.7	67.8	67.6(64.2)

【学校質問紙】

	設問（内容）	校種	H25	H26	H27	H28	H29
⑤	児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている	小学校	98.1	97.8	98.6	99.3	98.6(98.3)
		中学校	93.7	94.8	98.4	100.0	98.5(97.0)
	授業の中で目標（めあて）を示している	小学校	—	99.3	100.0	99.1	**98.6(99)**
		中学校	—	96.9	100.0	98.5	100.0(98.3)
	各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けている	小学校	—	89.2	92.2	95.0	**92.2(93.3)**
		中学校	—	79.7	82.8	85.9	92.2(90.5)
	総合的な学習の時間において、探究の過程を意識した指導をしている	小学校	—	80.0	80.1	80.9	**84.6(85.3)**
		中学校	—	78.1	79.7	84.4	92.2(83.7)

考察

【①学習意欲】

◇　学校に行くのが楽しいと思っている児童が平成 25 年度と比較して 0.2%減少し、生徒が 2.9%増加している。

○　国語、算数・数学の勉強が好きと思っている児童生徒が平成 25 年度と比較して同じか増加している。

【②自尊意識】

○　自分にはよいところがあると回答した児童が平成 25 年度と比較して 2.7%、生徒が 4.3%増加している。

●　将来の夢や目標を持っていると回答した児童が平成 25 年度と比較して、1.0%、生徒が 1.2%減少している。

○　学校のきまり（規則）を守っていると回答した児童・生徒が平成 25 年度と比較して 2.5%、生徒が 1.3%増加している。また、人の役に立つ人間になりたいと思っている児童が 0.9%、生徒が 0.4%減少している。

【③思考力・表現力】

○　自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることに苦手意識をもっている児童が平成 25 年度と比較して 5.0%、生徒が 6.5%減少している。

【④学習習慣】

○　予習・復習をする児童生徒、家庭での学習時間が 30 分以上の児童生徒は平成 25 年度と比較して増加している。

●　依然として予習・復習を全くしていない児童生徒が一定数いる。（予習：児童 26.6%、生徒 35.1%、復習：児童 19.8 %、生徒 20.6%）

●　家庭での学習を全くしていない児童生徒が一定数いる。（児童 3.1%、生徒 5.2%）

●　普段、読書をしている児童の割合は、全国平均とほぼ同程度、生徒の割合は、全国平均よりも低く、基礎基本の学力向上のためにも、自主的に読書をする児童生徒の割合を高めていく必要がある。

【⑤指導方法】

○　児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている学校が小学校では 98.6%、中学校では 98.5%であり、ほぼ全ての学校で児童生徒の活動を授業の中に位置付けていることがわかる。

●　総合的な学習の時間において探究の過程を意識した指導をしている小学校は 84.6%であり、全国平均より低い。また、各教科の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けている小学校は 92.2%であり、全国平均より低い。中学校は全国平均を上回っているが、両校種とも肯定的回答の割合を増やすだけでなく、質を高めることが重要である。

※　表中の■は、全国平均を上回っている項目を示している　　※　表中「－」は、同年調査で実施していない設問を示している　　※表中、平成 29 年度（　）は、全国平均を示している。

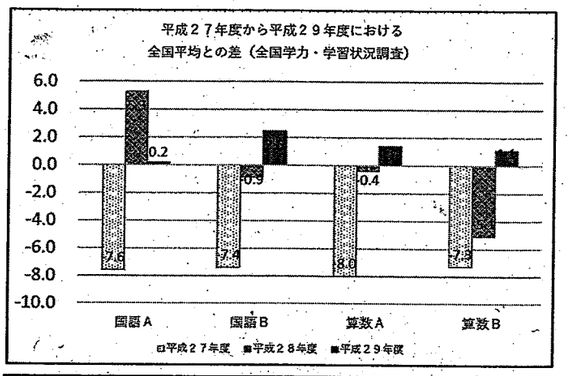
上安小学校

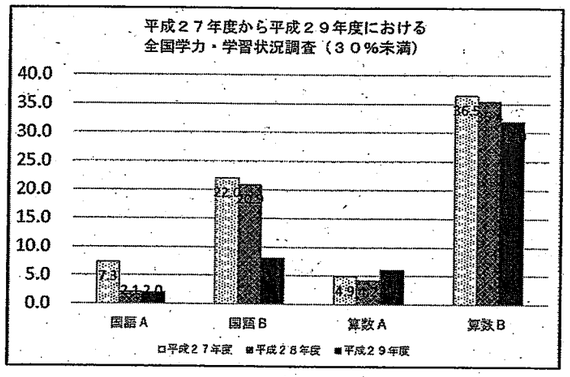
H27・28　学力向上推進事業「授業改善推進校　学校力向上」指定校

～　基礎・基本の定着を確実なものにするための取組　～

1　全国学力・学習状況調査の結果

○　平成 29 年度は、国語ＡＢ、算数ＡＢともに全国平均を上回りました。特に算数Ｂは、平成２８年度を大きく上回っています。
○　国語ＡＢ、算数Ｂにおいて、正答率３０％未満の児童の割合が減少しました。





2　効果があったと思われる取組

(1)　前年度の学力調査等の結果をもとに、帯タイムの学習内容を決めています。音読を取り入れたり、徹底した計算等の反復学習を行ったりしています。
(2)　算数科の授業において、児童が本時のねらいを達成したかどうかを確認するため、適用問題に取り組ませています。
(3)　全学年でノート指導に取り組んでいます。学習の足跡が残るノート作りを目指しています。

(1) 児童の課題を克服するための帯タイムや反復学習の充実

平成２７年度「全国学力・学習状況調査」や「基礎・基本」定着状況調査の結果分析により、国語科においては、読むことの領域に課題が見られました。また、質問紙調査等から、１日あたりの読書時間も短いということがわかりました。

そこで、読み物教材に触れる機会を増やすために、帯タイムの内容を見直し、読む能力の定着を図る問題を取り入れたり、音読を取り入れたりしました。

また、算数科においては、「全国学力・学習状況調査」のＡ問題や「基礎・基本」定着状況調査のタイプＩに課題が見られたため、帯タイムや授業において計算等の反復学習を取り入れ、基礎・基本の定着を図りました。

(2) 授業における適用問題の取り入れ

本校は、平成２７年度、２８年度と２年続けて「授業改善推進校　学校力向上」の指定を受け、研究主題を、平成２７年度は「一人一人が意欲的に参加し、学ぶ喜びを感じ合える授業づくり～意欲をもって学習できる場の工夫（発問・指示を明確にした授業づくり）～」、平成２８年度は「一人一人が意欲的に参加し、学ぶ喜びを感じ合える授業づくり～かかわり合いながら課題を解決する場の工夫～」と設定し、前年度の成果をさらに発展させることを目指して研究を進めました。

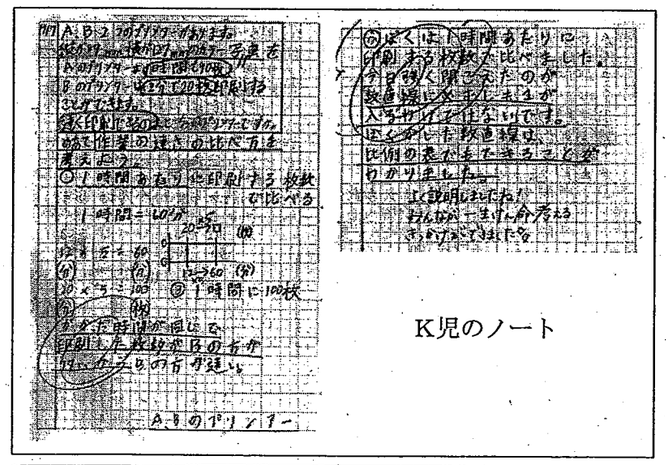
教職員にアンケート調査をしたところ、発問・指示を工夫したり、学習のめあてを毎時間提示したりするなど、授業改善に向けた肯定的回答の割合が高く、児童の授業に取り組む意欲が向上したことは、成果の一つです。

本年度は、研究主題を、「みんなが『楽しい』『わかった』『できた』と言える算数授業づくり」とし、本時のねらいを達成することができたかどうかを評価するための適用問題に取り組んでいます。校内全体研究授業においては、協議の柱を、①適用問題に取り組む時間（７～１０分）の確保②学習の目標を達成させるための指導の工夫とし、本時のねらいに迫る学習展開であったか、適切な適用問題であったか、適用問題に取り組む時間は十分確保されていたか等、児童の基礎・基本の定着を確実にするために、全教職員で研究を深めています。

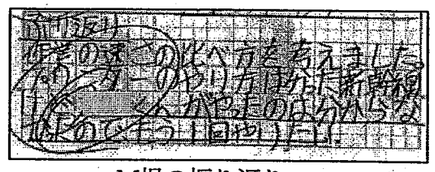
(3) ノートの活用

①日付・めあてを書く　②線は定規で引く　③大切な言葉は、赤・青で書く　④ノートの左端に線を引く等の継続したノート指導により、ノートに自分の考えを書いたり、友達の意見を聞いて気付きを書いたりすることができるようになってきました。

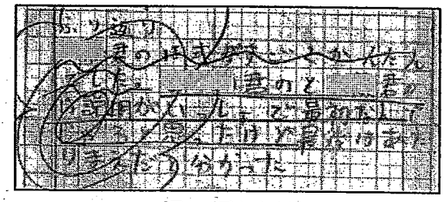
また、児童は、ノートを見ながら自分の学習を客観的に振り返ることもできるようになりました。自分がどのような力を身に付けたのかが分かるとともに、指導者は、児童の振り返りを活用して、授業後の評価を行ったり、次時の指導に生かしたりすることができます。



K児のノート



M児の振り返り



S児の振り返り

【校長先生からのメッセージ】
本校の職員室では、授業づくりに関することや児童の学びの様子が絶えず話題になっています。児童の様々な課題に迫るためには、まずは、日々の授業を丁寧に行い、確実に評価することの積み重ねを徹底することが大切であると考え取り組んできました。
今後も、児童の学力向上を目指して、教職員が一丸となって基礎・基本の定着に取り組んでいきたいと思います。

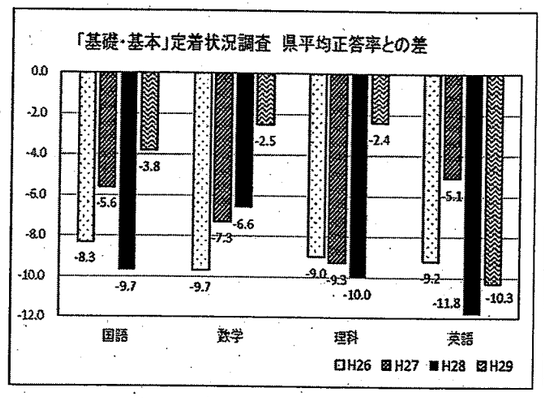
三和中学校

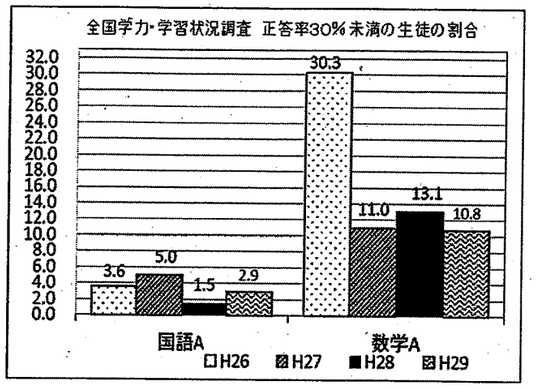
H27・28　学力向上推進事業「授業改善推進校タイプⅡ」指定校
H28・29　まちぐるみ「教育の絆」プロジェクト 実施校
H29　道徳教育実践研究校

～ 教育委員会の施策と学力調査の分析を生かした学力向上の取組 ～

1 「基礎・基本」定着状況調査　全国学力・学習状況調査の結果

○ 「基礎・基本」定着状況調査における県の平均正答率との差が、平成２６年度以降、減少傾向にあります。
○ 全国学力・学習状況調査における正答率３０％未満の生徒の割合が、平成２６年度以降、減少傾向にあります。





2 効果があったと思われる取組

（１） 広島市教育委員会の研究指定を受け、授業研究のシステム構築を推進しました。
（２） 全国学力・学習状況調査、「基礎・基本」定着状況調査の結果を分析し、指導計画に反映させています。
（３） まちぐるみ「教育の絆」プロジェクトを活用し、放課後学習を行っています。

（１）研究指定校の活用

本校は平成２７～２８年度の２年間、学力向上推進事業「授業改善推進校タイプⅡ」の指定を受け、国社数理英で年間４回（延べ２０回、内１回は公開授業研究会）の授業研究会を実施しました。

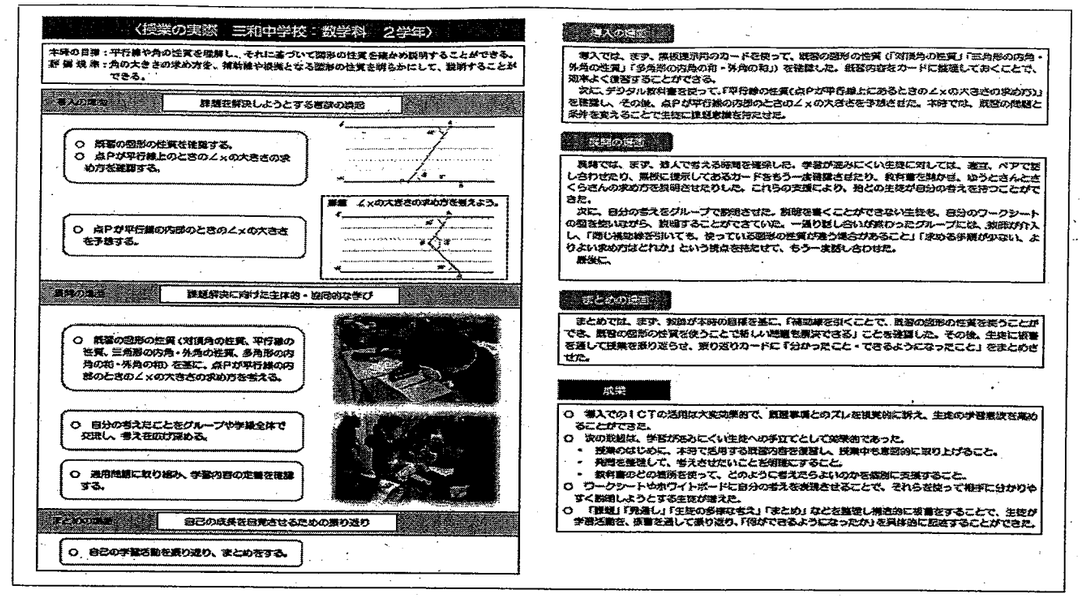
平成２７年度は、学習環境を整えることに重きを置いたスタンダードを作成し、その定着に向け、生徒会が中心となってポスターやＶＴＲを作成して啓発に努めました。

平成２８年度は平成２７年度に作成したスタンダードをもとに、各教科ごとに協同学習を取り入れた授業モデルを作成し、そのモデルに則った学習指導案を作成し、公開研究会を開催しました。

さらに、平成２９年度は「道徳教育実践研究校」の指定を受け、全教員で「考える道徳、議論する道徳」の授業づくりについて実践的な研究を進めています。

このように、本校では研究指定を受けることを通して、全教員による授業研究のシステムを構築するとともに、公開授業や校内研修会において大学の研究者や指導主事からの指導助言を受け、授業改善を推進してきました。このような取組みにより、専門的な視点からの指導助言を教職員の中で共有するだけでなく、公開研究会や校内研修会に向けて、教員同士で授業に関わる対話が増え、同僚性が高まっています。

【作成した授業モデル】



（２）学力調査の結果の活用

本校では継続して、全国学力・学習状況調査や「基礎・基本」定着状況調査の調査問題と、その調査結果を各教科会や研究部を中心に分析を行い、生徒が苦手としている領域やどのような誤答が多いのかを把握し、その対応策を検討した上で、単元の進度に合わせて実施する小テストの問題として取り入れたり、授業の学習課題として計画的に授業で取り上げたりしています。

（３）まちぐるみ「教育の絆」プロジェクト

平成２８年度より、「まちぐるみ『教育の絆』プロジェクト事業」の取組として、「三和中きずなルーム　ひまわり」を開設しました。

本校は「部活動を行わない日」を設けており、その日にあたる月曜日の放課後を中心として、夏休み期間中や試験前に、地域の方や大学生による学習指導を行っています。

【校長先生からのメッセージ】

学校には、子どもたち一人ひとりが安全に安心して学校生活を送ることができること、そして、効果的に教育活動が推進されることが求められています。

こうした中、本校では、昨年度までの２年間、学力向上推進事業「授業改善推進校（タイプⅡ）」の指定を受け、授業改善に取り組み、指導主事の先生や大学の先生による指導・助言を受ける機会が増えて、その結果、教員の授業力が向上し、生徒の授業に臨む姿勢に変化が見られました。

全国学力・学習状況調査や「基礎・基本」定着状況調査の結果を分析し、本校の課題を明らかにし、その解決に向けて、授業の中で活かそうと工夫を重ねたり、「まちぐるみ「教育の絆」プロジェクト事業を活用し、放課後学習の場を設けたりしました。これらの取組により、基礎学力が向上したものと考えます。

さらに、本年度から、道徳教育実践研究校の研究指定を受け、「命の大切さ」をテーマとして豊かな人間性の育成に取り組んでいます。

こうした取組を推進する中、より良質な授業づくりをめざして、学習・生活環境を維持し、良好な人間関係を構築していきたいと考えております。